

第13期 社会教育委員の会議（第13回） 会議録

● 開催日時 令和4年10月28日（金） 午後1時58分～3時58分

● 会場 教育委員会室

● 出席者

社会教育委員（5人）

大島 英樹

野川 春夫

大畑 廣行

工藤 宜

風澤 明子

事務局職員（3人）

生涯学習課学び支援係長

佐藤 吉裕

生涯学習課学び支援係（社会教育主事）

与儀 睦美

生涯学習課学び支援係

黒澤 幸恵

オブザーバー（2人）

生涯スポーツ課長

柿澤 幹夫

生涯スポーツ課事業係長

張替 武雄

出席者 計10人

次第

1 議 事

- (1) 「記録と提言」の検討
- (2) 教育委員との懇談会について
- (3) 今後の会議の進行について
- (4) その他

【配付資料】

○第12回会議録(案)

○各課の取組(改訂版)[資料1-1]

○委員の提言案 [資料1-2]

○教育委員との懇談会関係資料[資料2]

○第13期社会教育委員の会議スケジュール(案) [資料3]

○葛飾区教育振興基本計画策定に係る調査票

○「かつしかのきょういく」第149号

○関連事業チラシ

第8期区民運営委員会委員募集、区民大学講座チラシ(一人で作る!おせちで使える卵料理)

— 開会 —

○事務局 本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから第13回社会教育委員の会議を始めます。

本日、欠席のご連絡をいただいている委員は、熊谷委員と鈴木委員と竹高委員です。

それぞれお仕事やご家庭の急な事情でお休みとなります。また、生涯学習課長は葛飾柴又の重要文化的景観の職務のため柴又に出張しておりまして、欠席となります。風澤委

員ですが、お仕事のため3時頃退席されます。それから、立教大学の社会教育実習生が、議長の許可を得たうえで事務局スタッフとして同席いたします。

本日、傍聴人はいらっしゃいません。

資料の説明をいたします。

まず次第でございます。

次に、前回、第12回の会議録の案を配布させていただきました。こちらをご確認の上、修正箇所がございましたら、11月11日（金）までに事務局までお願いします。なお、前回ご確認いただきました第11回の確定版会議録は、すでに葛飾区ホームページに掲載されておりますので、どうぞご覧ください。

資料は、議事の順番に綴じられております。今まとめてくださっている「記録と提言」の資料1は、資料1-1と資料1-2に分けております。資料1-1は各課の取組をもう一度各課に戻し、加筆修正をしたものです。資料1-2は委員の皆様方から提言案の元となるものを送っていただきましたものです。

次に資料2は、12月9日に予定しております「教育委員との懇談会」の関係の資料です。

資料3は、今後の会議スケジュール（案）です。

封筒に入っているものは、葛飾区教育振興基本計画策定にかかる調査票です。後ほどご説明いたします。

それから、できたばかりの「かつしかのきょういく149号」です。最後に、関連事業チラシが置かせていただきました。

資料は以上でございます。

不足のものはありますか。

それでは、この後の議事進行は、大島議長にお願いします。

1 議 事

(1) 「記録と提言」の検討

○議長 それでは、皆様、こんにちは。今日は欠席の委員が多いということで、「評価と提言」の文章をみんなで共有していくという作業をしていきたいところですが、今日はお出でになられている方のものを中心に、まとめ方のスタイルとしても共通の形というものも必要になろうかと思っておりますので、方向性というものを確認できればと思います。

先ほど、事務局からご紹介いただいたように、資料1-1には各担当課で記録のカレ

ンダーとそれに関わる説明の資料、資料1-2のほうに委員の皆さんがお書きいただいた「評価と提言」という形になっていますけれども、「各課の取組」と委員さんの文章を、セットで見えていくような形でここから進めていきたいと思います。

お手元にある資料の、綴ってある順番通り進めていきたいと思います。始めに生涯学習課からということで、事務局からまずご説明いただけますでしょうか。

○事務局 生涯学習課の事業の記録ですが、カレンダーのほうは前回と大きく内容は変わっていないのですが、表記の仕方をわかりやすく、中止の部分ははっきりとわかるように黒枠をつけたり、一部書き漏れがあったところを記入したりしています。前回話題になった「かつしか区民大学」の2020年4月・5月の区民運営委員会がまったく動かなかった部分については、区民大学係長と相談して、「中止」というより「活動停止」という表現ではどうかということになりました。それから、以前通りほぼできていることについては白地にし、人数を制限したり、工夫したりという部分がグレーの網掛けにと、色で分けております。それから、生涯学習課はもっと多くの事業があるのですが、どれをピックアップしようかと迷ってしまったり4本になってしまったのですが、もし増やすとすれば、青少年対象事業を何本かまとめるか、地域の団体と協働でやっております「わがまち楽習会」ですとか、そういったものでまとめるのか、どうしようかと、迷っております。どちらかを追加しようかと考えております。取組の文章のほうですが、これで時数がいっぱいになってしまっていますが、議長からご指摘のあったnoteについても、新たな取組として加えたいと思っております。

○議長 はい、ありがとうございます。では対になるところですので、委員さんのコメントも併せて確認をしていきたいと思います。こちらについては鈴木委員さんに書いていただいたところですが、ご欠席なので、黙読だとどこが強調点かわかりにくいと思うので、音読いただいたものを共有したほうが良いと思います。鈴木委員がいらっしゃいませんので、事務局にお願いしてもよろしいでしょうか。

○事務局 代読します。

「生涯学習課の評価と課題（提言案） 社会教育委員 鈴木弥生

生涯学習課の取組と評価

生涯学習課では、コロナ禍で多岐にわたる講座やイベントを計画する中、すべての事業がストップせざるを得ない事態になった時期もあったが、感染防止対策として、広い会場の使用、開催時間の短縮、募集人数制限を実施し、開催当日は会場設備や機材などの消毒、部屋の換気、参加者のマスク着用依頼、検温や消毒など十分な配慮をし、可能な限り開催をした。課として『区民の学びを止めない』という思いから、国・都・区の感染症対策などが示すイベント開催の留意点や自粛要請に基づきながら、中止や縮小、

延期などもあったが、慎重に開催の検討を行った。集うことがままならない時期にどう学びの場を提供できるのか。新たな取組としてオンライン講座の実施やオンライン配信の開始で、会場参加とオンラインの併用で会場での密を避けられ、料理教室や芸術講座、学習相談など、他関連団体との共催も含め開催できた。区民文化祭については人が集まらなると出来ないイベントであり、中止や無観客という残念な結果になった。

また、知的障害者のための『かつしか教室』においては宿泊や遠足中止などで講師と生徒相互のコミュニケーション不足を補うためにメールやハガキでの交流を取り入れた。このように開催不可や縮小など、課としても難しい判断ばかりだったかと思うが、新しい取組と工夫でできる限りの事業遂行をしてくれたことを大いに評価したい。

今後の課題

いままで経験したことのないコロナ感染症により、外出や人との交流が制限され寂しい日々が続いたが、第8波も心配される中、だんだんと以前に戻つつあるが、在宅勤務もそのまま継続している会社も多くあり、家にいることに慣れて、外に出ることを躊躇する人も多いのではないだろうか。広く区民の要望やニーズにあわせた内容を検討し、会場とオンライン参加の併用で実施できる講座については今後も開催してもらえればと思う。講座の内容としてはジャンルも幅広く、趣味の範囲にとどまらず、興味深いものが多い。いくつか私も参加を試みたが、年齢層の高い人が多く、十分な余暇があるからかもしれないが、地域的に心配がある水害対策などの講座も多かった。本来このような講座は若い人や中年層に多く参加して学んでもらい、災害時の避難においてご近所のお年寄りをサポートできるようにしてもらいたいと願う。区内の各町会でもこのような危機管理講座は開催しているのだろうか。町内会の班長、役員などを通し地域への参加をうながしてもらっても良いかもしれない。まずは葛飾区の講座やイベントに興味をもってもらうためのCMが必要かと思う。若い人たちは広報かつしかを見てくれるだろうか、駅や区役所、各所にチラシなども置いているがどれだけの人がそれを手に取ってくれているか。HPまで見てくれる人はどれほどいるだろうか。現在はSNSでの広報が若い世代には一般的になっているので現在も行っているかとは思いますがより力をいれてもらえればと思う。皆の区税で素敵な講座を開催しているというアピールも必要ではないか。幅広い年齢層の参加者がいて、これをきっかけに交流が始まれば素晴らしい。いまはとにかくお隣に誰が住んでいるかもわからないし、知らなくてもよい時代なのだろうが、ここは葛飾。昭和の頃の下町のふれあいを再び。人々が協力しあえる街づくりが理想だ。その一端を生涯学習課のまなび講座が担えたらと願う。」

○議長 ありがとうございます。課の記録とコメント、というセットで追っていただきましたけれども、トップバッターということで、ご本人はおられませんけれども、記

録にも残りますので共有していけるかなと思います。まずバージョンアップしていただいたカレンダーだったり、取組の説明だったり、いかがでしょうか。黒い太枠がインパクトが大きいですが、よくわかる、という気がしました。

○副議長 各課で出しているのが4つか5つの事業なので、委員の方の提言案で、それをサラッと入れておかないと総括的になりにくいのかなという気がしますね。その中で今後の課題で1つあるいは2つの事業に絞るというやり方があるかと思います。言うは易しですが。

○議長 カレンダーに表現してもらったものについて少なくとも言及があったほうがいいということですね。

○議長 カレンダーに表現された事業に対する評価。その中から全部ではなくてもいくつか取り上げて、提言という形で絞り込む。

○大畑委員 カレンダーだけではなく、全部を見てしまうと、まとめる時書きにくくなってしまわないかと。カレンダーの中のどの文章というふうに摘出するのが、鈴木さんはいろいろなことを知っているから、全体を見渡した文章になるのかなと思います。これが一般の人にどうインパクトを与えるのかということがわからない。

○生涯学習課学び支援係長 たぶん鈴木さんは区民大学運営委員を経験されていて、特に防災にかかわる講座のこととかは区民運営委員会で取り組んでいる講座でもあるので、そういったところも内容としては含まれていて、さっき野川先生がおっしゃったピックアップしてという部分は、「かつしか教室」であるとか、区民運営委員会の取組であるとか、区民運営委員会の中では生涯学習課の事業の中ではオンラインで取り組む比較的先鋭的な事業をやっているの、そういった部分についてはしっかり触れられているので、事業の名称を書いたほうがわかりやすいのかもしれませんが、一般的に生涯学習課の取組についてしっかりご覧いただいているのと、課題にも触れられているという印象があります。

○議長 初めにオンテールされたのが鈴木さんのもので、非常にオーソドックスに目配りのある形で構成されていると思います。そこに野川先生から具体的にカレンダーにあがった各事業への言及ということ、それから選んで「提言」というミニマムのラインをお示しただけしているのかなと思います。

○副議長 「全体的なことでもいいよ」ということであれば、これでまったく構わないんですけども、こちらの事業の記録との整合性というのがないと、まったく知らない人が読んだ場合にわかりにくいと言われてしまうかもしれませんので、先ほどご意見があったように、例えば事業名をカッコ書きで入れておいて、もう少しわかりやすくすると、整合性があるということです。

○議長 僕らはここで繰り返し各課からのご報告もいただき、僕ら自身で感想も言っているので何度も目にしているわけですが、初見の方にイメージしやすいようにということだと思うので、担当課の表現と委員が書かれたコメントの重複は厭わない。きっちり名指しして書いた方が親切だということになりますかね。

今日一通りご提出いただいている皆さんの文章を確認する中で、最終的にこの辺をミニマムに表現しましょうというところを、最後にもう一回確認させていただければと思います。そのような形で次の課にいてみたいと思うのですが、風澤委員が3時までと伺いましたので、地域教育課の取組についての記録と提言の検討に進ませてもらえればと思います。よろしいでしょうか。こちらは、事務局からご紹介いただけてよろしいでしょうか。

○事務局 地域教育課の資料1については、事業数が多かったものを、お願いして5本にまとめてもらったところ、そこに「ジュニアリーダー講習会」が外されていました。

「ジュニアリーダー講習会」は、子ども会のリーダー養成の事業として長くやっている重要な事業だという思いがありまして、今日の資料には残しておきました。文章の方は、変更はありませんでした。

○議長 続けて、委員さんの評価と提言というところで、大畑委員からご紹介いただきます。

○大畑委員 はい。

「地域教育課 コロナ禍での取組み

前例の無い感染症の発生で令和2・3年は行事運営の安全性の見極めと対策に迫られて通常の運営が出来なかったと思われまます。はたちの集いや子ども祭りの行事については、比較的実行委員会の開催も少なく、開催か中止の決定が速やかに決定しオンラインでの開催で内容の変更ができて行ったのかなと思われまます。これからの運営方法の提案にもなっていたと思われまます。少年の主張大会の開催では、区内全小中学校の協力と、予選会を行う地区委員会との連携を図り令和2年のみの中止でできたことは良かったと思われまます。取組の工夫も地区ごとに特色があり長年の地域活動の経験が生かされていたと思われまます。青少年育成地区委員研修会は実行委員会を重ねながら連続で中止になりました。講習の内容などの変更や、オンライン研修等も取り入れたりして共通の知識を学んでもよいと思われまます。放課後子ども事業については、コロナ禍ではありますが、限りなく通常稼働を目指しているようです。感染症の影響を受けやすい高齢者がリーダー・サポーターとして活動することが恐怖に感じ、サポーター・リーダーを退任する方が多いように聞いています。外部委託業者を多くの学校で導入することになると、大きな児童館を多数作るのと変わらなくなってしまう。これからのボランティア募集に当た

り、保護者の理解と協力を話せる機会も必要になってくると思います。大きな団体の行事の事務局として、とても忙しく細かい作業を遣って頂きコロナ禍を乗り切れたと思います。

地域教育課のこれからの取組みで是非とも進めて頂きたいと思うことは、地域の教育力・家庭教育力の向上を目指した事業に成っていくように各団体に新しい情報や検討テーマを広め意見交換を盛り上げていただきたい。今回の報告の中で青少年委員会の活動が会で行っている活動や研修内容を、地域にどのように広めていけるのか。青少年委員の皆様をもっと活用して、葛飾区の方針や新しい情報を地域に伝え広めて地域活動の活性化を促していけると、コロナ禍後の新しい地域コミュニティの道しるべになっていくのではないのでしょうか。地域教育課の皆様には行事の準備補佐に留まらず、PTA・地区委員会・子ども会等の地域活動の活性化を行い、教育力の向上に繋がるのではないのでしょうか。」

○議長 ありがとうございます。続けて、風澤委員お願いします。

○風澤委員 はい。今皆様の提言を見ながら「あ、そのように包括的に、なおかつそれぞれの事業に触れながらまとめるんだな」と反省しております。一応読ませていただきます。

「地域教育課の取組みについて

地域教育課の各事業につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまで継続・発展させてきた内容の見直しをせざるを得ない状況と直面し、各事業の特性を鑑みながら、実施の可否を判断し、実施方法の検討を重ねてこられました。また、感染防止対策等の様々な情報と取組み経験をもとに、全面中止から可能な限りの実施へと努力されてきました。

1 評価

【はたちのつどい】

○2020年度は対面での開催を中止し、オンライン開催とし、2021年度は対面での三部制開催となった。二十歳の節目としての門出を祝い、成人となる若者への期待とともに今後の生き方への自覚を高める機会として、オンラインや三部制などの工夫で実施できたことは大変よかった。

【少年キャンプ】

○2020年度、2021年度は、中止となったが、キャンプという性格上、やむを得ない判断であった。

【ジュニアリーダー講習会】

○講習会は、2020年度、2021年度は、開催回数を縮小して5回実施し、2022年度はコ

コロナ禍前の9回の実施の予定となっている。野外活動宿泊実習においては、2020年度のみ中止となり、その後は実施の方向となっている。実施に際しては、活動内容の吟味がされたことと推察できる。

【少年の主張大会】

○2020年度は全面中止、2021年度は、地区委員会の予選会は地区の児童生徒の感染状況などの実態により中止とした地区委員会もあり、縮小した大会となった。地域による感染状況が異なるため、適切な開催方法であった。2022年度は、地区予選会の開催方法を工夫し、本大会が開催される見通しである。児童・生徒の学びと励みとなる場が戻りつつあり、よい方向に進んでいる。

【子どもまつり】

○2020年度は全面中止、2021年度以降はオンライン開催となっている。事業の性格上、対面では密集を避けられない事業であるため、適切な方法であった。オンライン開催は、中止をせず継続のための努力と捉えることができる。

【青少年育成地区委員研修会】

○2020年度、2021年度は開催中止、2022年度より研修会実施となった。開催内容及び方法についての検討を十分重ねての実施となったことが推察できる。

【放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）】

○一斉休校と同時に一斉活動休止となり、活動再開については、体制や準備が整った学校から順次開催となっている。再開方法なども各校の児童及びスタッフの実態により異なっている。各学校の事情に合わせ、無理なく再開できているのはよい。

【PTA 広報研修会】

○2020年度は開始中止、2021年度は1回のみ開催、2022年度は全4回開催と通常開催の方向に進んでいる。感染防止対策を講じながら今後も引き続き開催方法や内容を工夫して進められるとよい。

【家庭教育講座】

○2022年度まで年間4回の開催ができた。実施の際は、学校施設の利用を避け、地区センターでの開催に変更するなどの配慮や、オンライン開催にするなどの工夫があり、中止とせずに事業を継続できたのはよかった。

【ノーテレビ・ノーゲーム学習会】

○学校施設の使用制限から2020年度は1回のみ開催。2021年度は4回実施となった。今後も本事業の継続を目指してほしい。

【学校地域応援団活動】

○活動の可否や活動内容は各校の判断によって進められてよかった。

2 課題

・わくわくチャレンジ広場事業は、コロナ感染防止のための活動中止や縮小により、サポーターの辞退が増加し、全面再開の際の問題にもつながっているように感じる。各学校のサポーターの年齢構成の事情もあり、各学校の現状も様々ではないかと推察できる。

・学校地域応援団の活動では、学習支援や図書ボランティアなど、教室での子どもとの接触を制限せざるを得ない状況の中で、ボランティア延べ参加者数の減少となったと推察できる。これまでの活動の中止や制限による影響で、学校地域応援団のボランティアもわくチャレ同様、消極的になる方が増加するのでは懸念する。地域と学校、子供と地域をつなぐわくわくチャレンジ広場や学校地域応援団の今後の課題と方策を整理していただきたい。」

○議長 ありがとうございます。先ほど生涯学習課のところで野川先生がおっしゃったように、事業ごとに言及されていて非常にクリアにお示しいただいていると思います。いかがでしょうか。

○工藤委員 前の会社のことを思うと、仕事でこういうものを見せる時はデータが必要なんです。例えば売上高とかが必要なんですけれども。これを見ると、事業をやっているのもわかる。中止もわかる。そこに参加者数を書いていけば、まだ途中だなということがわかるのかな。2018年度を100にすると、2020年度とかはコロナのため3割くらいになっている。そういう参加者数を入れた方がわかりやすいかな、説得力があるかな、というふうには。これは他の課も同じですけれども。ただこれを見ても、見た人は「ん、なるほど」。数字を入れれば結構リアルになるかなと思います。

○議長 ありがとうございます。各課のご報告の時にはいろいろ数字をお示しいただいているかなと思いますけれども。もし入れるとすると、それぞれの担当課のカレンダーのところで象徴的な数字ということに入れるということでしょうか。

○工藤委員 グラフで分かるようにすれば、分かりやすいかな。コロナ前はどんな数字だったかとか比較できる。まだまだなのか、グッと上がっているのか、そんなことが分かるのかなと。

○生涯スポーツ課長 議長と同じ考えなのですけれども、各課の報告の中にそういう数値を入れ込んでいくものなんだろうなと感じます。そこと対比しながらこのご意見があると非常に見やすいのかなというのは確かにあると思います。カレンダーのところにどう入れていくのか。あとはもう一枚コメントもついているので、そこでどう表現していくのか、工夫をしていければ非常に活きるのかなというふうに思います。

○議長 ありがとうございます。たぶん、工藤委員のおっしゃること、もつともいうか、すごく前に進むご提案なのですが、この報告や提言の性格上、事業評価というところ

ろとはちょっと違うと思うんですよね。一個一個の事業評価活動みたいなものと数字ばかり出て、そういうのも教育委員会の事務の中にはあるのですよ。

○工藤委員 そこまでは言っていないのですが。

○議長 象徴的な数字があったら納得がいく、というご指摘と捉えて、工夫をしていただければと思います。

○副議長 余計なことになるかもしれないのですが、せっかく図がありますので、人数が少ない場合には細字で、相当数来た場合には普通で、大勢来たばあいは太くしておく一目でわかると思います。

○大畑委員 地域教育課の場合、事業開催のために委員会をもってやっているのがほとんどです。参加者という、「わくチャレ」では、やれている学校とやれていない学校の差が表現できるかもしれないけれど、あとは団体が活動している。「中止」、「実施」というのは出ても、内容的、数字的な差というのはそんなに大きく出てこない気がします。個々の参加の、例えば生涯学習課の区民大学でやっている事業だと参加者数ではっきりと分かるかもしれませんが、地域教育課に関しては、大きい行事を支えるための活動をしているというイメージなので、人数で表現できるのかどうか、わからなところがあります。

○議長 前回も、それぞれの課によって事業実施のスタイルが違うというお話がありましたね。実行委員会形式が強いところもあれば、直でということもある。そういうところについても今のお話を引き取って、最後のまとめのところでも言及して、それぞれ違うということもクリアにしていきたいと思います。そういう意味では共通の表現のフォーマットというのは限界があるかもしれないけれど、それぞれ強調したいところというのはわかるといいなと思います。共通できるところは一通りお聞きしたうえで、確認をして、提案としてここに出していただくということにしましょうか。

他はいかがでしょうか。では、博物館にまいります。こちらでもまた事務局からご説明をお願いします。

○事務局 「博物館開館」のところで、以前の資料では閉館した期間に「緊急事態宣言」と記載していましたが、それを削除して閉館した日にちを入れてあります。あとはそれほど変わっていません。文章の方は、言い回しなど、ところどころ修正した部分があります。「コロナ禍での事業の経過」の下の方ですけれども、保健所対応のため閉館したことについては「令和4年2月7日から28日までの期間は、保健所応援対応のため閉館した。」という記載に変更しております。

○議長 ありがとうございます。こちらについては竹高委員が書いてくださったので、事務局から代わりにお願いします。

○事務局 代読します。

「郷土と天文の博物館 竹高 京子

評価

緊急事態宣言下や保健所応援対応での閉館期間があったものの、博物館の「限定開館」に伴い、プラネタリウム投影（上映時間・定員、予約の有無）を少しずつ緩和しながら進めていただいている。休館している期間には学校などへ職員を派遣し出前講座を行うなど、開けないのであれば博物館から出向いていくという姿勢や、館内の展示を体験出来るようビニール手袋を配布していただくなどの配慮は大きく評価できる。「野遊び道場」「田んぼジュニア・米作り体験」は屋外ということもあり、距離感を持ちながらも活動が継続できているのはありがたい。職員の方々の努力と気遣いを感じる。タブレット端末の活用の促進により生活の中での実体験をして学べたことが減少し、情報量は増えているが実感を伴った体験が極端に少なくなっていると感じる。葛飾区の博物館のプラネタリウムは日本の中でも素晴らしい評価をいただくプラネタリウムであり、区民の中でも大好きな館の1つだと思う。季節の投影に合わせてアナウンスしていただく話は他のどこでも経験できるものではなく素晴らしい。

課題

自然や生き物との関わりや農業体験などは、子供たちにとって貴重な体験学習の場である。だからこそ博物館の活動は非常に大事なものだと感じる。活動内容や取り組みの意義を今後も広く発信し、充実した活動ができるよう継続していただきたい。プラネタリウムはどんな事態が起きても人数制限があってもそういう時だからこそ閉館はしないで頑張っていたいただきたい。その一回の投影で癒される人、救われる人が必ずいると思う。

葛飾区の子どもたちが自分の住んでいるルーツを体感しながら勉強できることは、非常に大切なことだと考える。そして博物館職員の方々はそれを続けるための努力を惜しまないでくださると信じる。これからも基本的な感染対策について来館者への徹底を継続し、通常開館に向け取り組んでいただきたい。」

○議長 では、この博物館のカレンダーと経過、そして評価と課題について、いかがでしょうか。

○事務局 前回竹高委員の方から、ビニール手袋を配布して展示物に触ることができることについて、資料2のコロナ禍での取組の中にも入れてほしいというご意見がありましたので、博物館長に伝えたのですが、「感染対策としてやったことの1つで、大したことはやっていない。当たり前のことで、感染対策でいろいろなことをやっている中の一つなので書かない」と言われましたので、書いておりません。博物館の意向ということです。竹高委員が書いてくださっているもので、それでよいかなと思います。

○議長 そういうプラスアルファで言及される部分はいいのではないのでしょうか。それこそ区民として利用している側の方から「こういうところも目に入っている」という言及だと思います。竹高委員の言及であった出前講座のことも、カレンダーからは見えないうえですが。

○事務局 ピックアップする5つの事業には入らない、という博物館の判断のようです。博物館もたくさんの事業をやっているのです、5つ挙げるとこうなるようです。

○生涯学習課学び支援係長 出前講座でやっているものは、閉館中のスペシャルアイテムというわけではなくて、学校から要請があると適宜やっていることなので。例えば土器を持って学校へ行く、ということもやっているようです。

○風澤委員 私、そこは勉強不足でした。

○生涯学習課学び支援係長 学校によっては毎年やっているところもあるようです。

○風澤委員 資料の中の「新たな取組や工夫した点」というところに「職員出前講座」があるので、今までやってきたものもあるのかもしれないですけど、何かお考えがあって「新たな取組」ということで入れていらっしゃるんですかね。

○事務局 たぶんそうだと思います。今までやっていなかったわけではないけれども、力を入れているのだと思います。

○議長 学年の行事とかで博物館に行ったりする時がありますか。

○風澤委員 あります。

○議長 それができない時に代わりに来て、という意味での新しいことでしょうか。

○大畑委員 前に、宇宙の話など、天文に関して、出張して学校で説明していると聞いたことがあります。

○議長 初めて歴史を習う6年生の時に、土器が目の前にあるとインパクトが大きいなと思います。

○大畑委員 手袋のこともそうなのですけれども、見るだけではなくて「ものに触れる」というのは、今回改修するにあたって、ボタンを押すのも画面に触るのも、みんな触ってやるのですけれども、触ってもいいというものを増やしているはずなので、そういう意味での手袋というのは早く気付いたアイテムだったと思うんですよね。

○議長 ありがとうございます。竹高委員の指摘を大事にしたいですね。読んでいただく事業について言及されていることもありますし、表記の仕方というところでそれぞれの委員さんの表現というのは統一感が出てくると見た時に見やすくなるのかなというところはあります。のちに確認できればいいかなと思います。

だんだん皆さんの声が積み重なってきたなと思います。共通したことが見えてきそうです。

それでは続いて生涯スポーツ課ですね。変更点などありましたらお願いします。

○生涯スポーツ課事業係長 まずカレンダーの方ですが、前回ご指摘で「オリパラの取り組みを載せたらどうか」ということで、前回は「その他事業」ということでいろいろなものを載せていたのですが、オリパラに関することを表記させていただきました。カレンダーでいうと、2020年2月くらいまでは正常にオリパラに向けてスポーツボランティアを養成したり、1年前イベントを行ったり、日本ブラインドサッカー協会と協定を結んで、日本代表合宿に奥戸の総合スポーツセンターを使ったりというふうに進めてまいりました。文章の方でコロナ禍の経過にもあるとおり、第一波が到来して東京マラソンが一般エントリーの出場を見送ってエリートのみで実施することによって、全国各地のマラソン大会をはじめイベントが中止になったということが契機となって、我々が主催する、この年の3月の「かつしかふれあいRUNフェスタ」についても、臨時実行委員会を開催して中止を決定するということになりました。参加者へは参加費を納入していただいていますので、その中の一部をQUOカードで還付したというような大変な作業があったということを書かせていただいております。

それ以降、3月以降については、区内の体育施設が全面休業となったため、事業も中止としました。事業がまったくできないというところで、自宅でできる簡単ストレッチ動画を作成して配信しました。カレンダーの方で星印に番号をつけていますが、これについては2枚目の「新たな取組や工夫した点」の番号と対比させています。ちょっと見づらいですね。カレンダーの方をカッコ書きにすればよかったですね。ここで動画の配信を行いました。「広報かつしか」にも一面で載せた効果があって、視聴回数16万回ということで、かなりの人に自粛中ストレッチを始め、ラジオ体操やウォーキング等を行ってもらいました。また、カレンダーの方で網掛けをさせていただいているところで、主に事業で影響が出た、中止になったとか縮小開催というような記載をさせていただいております。

新たな工夫した点ということで、「ウォーキング事業」ですが、これはスポーツ推進委員の事業になるのですが、こちらについては本来集団で、300人くらいの方がスポーツ推進委員さんを先頭と最後尾に、集団で歩く形式だったのを、マップを配布して個別にウォーキングしてもらい、チェックポイントに寄ってもらってゴールしてもらいというような事業を企画しました。また、「RUNフェスタ」については、GPSアプリ

「TATTA」を活用して、オンラインで大会を行って916人の参加がありました。また、「地区ロードレース大会」についても、希望する3地区でオンラインによる大会を開催しました。また、東京都のスポーツ推進委員協議会広域地区別研修会については、前年に当番区になったのですが中止になり、2021年10月に、どのようにやっていくか

ということでスポーツ推進委員の方と相談しながら、各区代表者1名会場に集まっていたとき、その他の推進委員の方はzoomで、オンラインで参加してもらうというようなハイブリッドの研修会を実施いたしました。また、5番目として、「オリパラ折り鶴プロジェクト」。本来オリンピックの聖火リレー開催前日に前夜祭というイベントを予定しておりましたが、集客するようなイベントができないという判断をして、逆に区民の心に残るイベントとして、区民が葛飾区ゆかりのアスリートに折り鶴を折って応援するイベントを開催しました。区内の中学校、小学校、幼稚園の全生徒に折り鶴を3万羽作ってもらって、区役所区民ホールで展示して、作った折り鶴で千羽鶴を作って選手に実際に渡してエールを送ったというイベントを開催しました。6番目の工夫として、年間2回実施する「体力テスト」については、感染症対策を盛り込んだ内容にマニュアルを全面改正して実施しました。また、受付時間も時間ごとにずらして受付することで密を避けながら実施したというような工夫をいたしました。

「コロナ禍による影響」としましては、各教室・講座で定員を絞る必要があるため、参加したい方が全員受け入れることができないというようなことが起きました。そういったことも原因で、地域スポーツクラブの会員は減少傾向になっております。また、体育団体や地区委員会が、リスクを負ってまで行事を実施するということに消極的な状況となっているということもあります。先日の「スポーツフェスティバルで」も19地区で運動会をやっていたのですが、3地区が辞退ということにもなっております。また、夏場はコロナと熱中症のリスクをどうするか、というようなことも起きておりました。高齢者は自粛期間がきっかけとなってスポーツをやめてしまう方が多い、という話も聞いております。現にスポーツ実施率も令和元年度68.6%が62.8%と減少している状況です。また、スポーツボランティアもオリパラを契機に養成して、登録者は増えているものの、イベントが中止となることで、活動しないまま辞めてしまうケースもございました。以上です。

○議長 では工藤委員、よろしくお願いいたします。

○工藤委員 「スポーツ課の取り組みについて」という私を感じた点だけ書きましたけれども、私が書いたのはスポーツ課が取り組んでいるたくさんの事業のうちの一部だけなので、「提言」とは言えないかと思います。

ただ、今やっていることを毎年同じように踏襲するのではなくて、もっと新しいものを、と思っています。例えばスタンプラリー。たまたまテレビで見たら、重ねスタンプでいくと押していく都度にいい絵柄になっていくというのを見たので、そういう工夫も必要なのかなと思って、ここに一部書きました。

中学校の部活動はこれからの課題なのでしょうけれども、今考えられる課題だけは考

えて整理して取り組んでももらいたいと思います。やはり、プレゼン能力が大事かなと思っています。例えば運動会のチラシでも、工夫すればもっともったいいんじゃないかなと思います。ただ、地域のスポーツクラブでフェスタを今回やるのですが、前年度、コロナ禍で300名だったので、今回はもっと増えてくるわけです。これから何かイベントがあると、どんどん申し込んできてオーバーする。その対応策も考えなくてはならない。でも、前と同じことをやっていたのでは忙しいだけで終わってしまう。そういうふうに感じています。

スポーツ課の事業については、一つずつの行事についてまとめをしっかりと、次に取り組むということ、やってもらいたいと思います。最近思うのは、この間も地域スポーツクラブのフェスタの手伝いに行って、前に比べて外国人の参加者が多くなりました。2、3年前は1割もいなかったのですが、葛飾区もだんだん外国人が増えてくるんでしょうけれども。そういうことも含めて、課題を整理しながら取り組んでもらいたいなど、そういうふうに感じています。

(以下は、工藤委員が書いた文章)

「生涯スポーツ課の取り組み、スポーツ団体の課題、取り組みの説明頂きました。コロナ禍でのスポーツ推進事業で諸々の新たな取り組みや工夫をしてきたと感じています。これからは今までのスポーツ推進事業をこなしていくことは当たり前として、日常的な課題のスポーツを支える担い手の高齢化を踏まえて、体制強化に特に目を向けたらいかでしょうか。

- ・今まで頑張ってきた人たちの高齢化は自然の流れです。次の担い手を支援していくには該当するスポーツ関連の指導方法、セクハラ・パワハラなど世間からみて必要な講習会開催、ニーズに基づき見方を変えた講習会も必要、3年間に1回は受講する仕組みが必要と思います。各スポーツのプレゼンの充実及び支援する環境作りがほしい。
- ・中学校部活動顧問指導員募集の内容（勤務時間、報酬、職務内容）を拝見してなり手はいない。情熱と熱意を期待しているだけで三方良しにはならない。スポーツ庁の中学校部活動の地域移行もあるので総合的に組み立ての準備期間が必要（特に中学校校長・体育担当とのコミュニケーション）
- ・今までのスポーツ行事で行われるスタンプラリーも工夫を凝らして「重ねスタンプ」などを活用して、5回押すとカラーの葛飾の風景になるとか、キャラクターデザインが完成するとか、参加者が「いいね！」と感じるものがほしい。
- ・毎年同じ区のスポーツ行事でも、スポーツ団体の行事でも企画力、プレゼン能力に磨きかけたのが必要です。

プレゼン大会でも開催して競い合うのも良いかもしれません。区行事部門、スポーツ

団体部門など。」

○議長 今工藤委員が話してくださったことは、お書きくださったものと加えて、事務局のパワフルな議事録作成能力で詳細な議事録を作ってくださいるのは有り難いことだと思いますよね。話すことと書くことって、どうしたって誰でも一対一で対応させるのは難しいので。言いたかったことが文字になって、そこをもう一回ご自身の言葉で取り込めばいいかなと思います。とりわけ、後半部分で、いわゆる講座というもの以上にスポーツというところは、外国の方の参入のハードルが低いのかなと、今お聞きして感じたところです。非常に興味深い指摘だなと思います。すごくいろんな指摘が詰まっていたなと思います。

同じく生涯スポーツ課への評価と課題ということで、熊谷委員にもお書きいただいておりますので、こちらもまた事務局からお願いできますか。

○事務局 代読します。

「生涯スポーツ課の評価と課題（提言の案となるもの） 社会教育委員 熊谷 晴弘

1 生涯スポーツ課の取組と評価

生涯スポーツ課からの「コロナ禍での事業の経過」報告によると、やはり多くの事業が中止になったり、感染症防止の観点から事業を縮小して実施したりしていた。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出状況に応じて、東京都の感染状況を鑑みたくえで柔軟に対応している様子が伺えた。「葛飾区感染拡大防止ガイドライン」に基づき、感染症対策を講じながらの事業の実施はかなり苦労をされたと推察される。例えば2021年10月以降、世の中が完全自粛からウィズコロナの方向に切り代わった段階で、対策を徹底しながらイベントを開催する方向で進め、2022年1月の「キャプテン翼CUPかつしか」を、2年ぶりに開催していることや、感染症の拡大状況に応じて同年3月に行われる予定の「第8回かつしかふれあいRUNフェスタ2022」をリアル形式での開催を取りやめ、オンライン形式の大会に切り替えていることなど、開催を前提に工夫をされている。「できることはできる範囲で行う」という形で、前向きに事業を進めてきたことは高く評価できる。

新たな取組として生涯スポーツ課では、家庭内でもできるストレッチ運動等を動画で配信し、区民が自粛期間に自分でスポーツ、運動に取り組めるような工夫をしている。他にもウォーキング事業をマップ配布にして個別に対応できるようにしたり、「かつしかRUNフェスタ」をオンラインにし、GPSランニングアプリ「TATTA」を活用したりと単なるオンラインの活用から一步踏み込んだ取り組みも見られた。特に「かつしかRUNフェスタ」や地区ロードレース大会については、葛飾区が以前から力を入れてきた事業でもあるので、このような工夫により開催できたことは高く評価したい。

2 今後の課題

この2年間あまり、世界中の人々は未曾有の危機に陥り、経験したことのない感染症に対応してきた。その中で社会は激変し、人の意識も大きく変わってきている。大きな契機を経て、現状は少しずつもとに形に戻りつつあると思われるが、従前と同じところに戻ってよいのかということも同時に考えていかなければならない。未知の感染症の対応に追われた2年間の中で、様々な経験をし、新たな知識・技術を得たうえで、今後の生涯スポーツの在り方、方向性を考えていくべきかと思う。

無駄なこと、非効率的なことを省き、人と人がつながりをもちながら、スポーツを続けられる姿を考え、新たな方向性を見出していく必要があると思われる。高齢者は自粛期間がきっかけとなって、スポーツを止めてしまう方が多かったとの報告があった。また、スポーツボランティアは講習会を行って登録者数は増えているが、イベントが中止となることにより、活動機会がないため活動しないまま辞めてしまうケースもあるとのこと。高齢者やボランティア登録をされた方のモチベーションをどう維持していくのかが、新たな課題であると思われる。従前に戻すことがよいことではなく、この2年間の中での社会の変容、人の意識の変化を踏まえた上で、人が一生涯続けられるスポーツの在り方や取組を考えていくことが重要ではないか。

また、報告にはなかったが中学校の運動部活動の地域移行も、生涯スポーツと関連した大きな課題であると考え。近年、中学校の運動系部活動については持続可能性という面で厳しさを増しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行している。（生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和2年84万人）そのような中で、競技経験のない教員が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教員にとって大きな業務負担が課題となっている。（土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増）また、地域のスポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない状況もある。

このような状況下、将来にわたり我が国の子供たちが生涯を通してスポーツに親しむことができる機会を確保することは、学校の働き方改革を推進し、学校教育にも大きな影響を与えると思われる。スポーツは、自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じることに本質があり、自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創りにもつながる。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出を目指すためには、地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保することが必要となってくる。このような理念のもと、スポーツ庁では、まず休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とし、休日の活動については令和5年度の開始から3

年後の令和7年度末を目途としている。平日の活動の地域移行は、できるところから取り組み、地域の実情に応じ休日の地域移行の進捗状況等を検証したうえで、更なる改革を推進することをめざしている。

これを踏まえて、葛飾区においてもスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも着実に取り組み、地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働を進めていく必要がある。そのために葛飾区教育委員会においても、生涯スポーツ課、指導室等の関係部署が連携して、部活動の地域移行に取り組んでいく必要がある。」

○議長 ありがとうございます。この問題は、何度も意見交換をしていただいたところだと思いますので、いかがでしょうか。最後の方、スポーツ庁の動きについてもありましたけれども、野川先生いかがですか。

○副議長 大変よくまとめられていると思います。表の方ですが、事業名と書いてあって、「大規模イベント」と書いてありますよね。その下に「地域スポーツクラブ」、その下が「スポーツ推進委員」とありますが、これは逆かもしれないですね。葛飾区の体育協会が出ていないのですが、これは入ってこないのですか。それとも大規模イベントの中に入れるんですか。

○生涯スポーツ課事業係長 大規模イベントは、体育協会は一緒に共催してやっております。

○副議長 地域スポーツクラブとスポーツ推進委員と体育協会と一緒に組んでいろいろ生涯スポーツ課がやっているというのがわかるようにしておいた方がいいと思います。学校部活動のことはまだまだ決まっていないので何とも言いようがないですね。

○大畑委員 熊谷委員が書いているものでも来年以降から順次進めていかないと、ということですよね。2、3年でできるものではないですね。

○副議長 工藤委員もおっしゃっているように、お金と人と場所と、それから法整備をちゃんとやらなくてはいけないところが、全部が進んでいないのに、Go!と言ってしまったから。

○工藤委員 やろうとしても、3校で一括りだとしても中体連で試合に出るときにどれで出るのか、そこにもきちんと認めてもらわないといけない、という。

○副議長 最初の話では、中体連とか高体連というのはもういいんじゃないか、という見方があって。今は、飛び級もできるようにしよう、レベル別にやった方がいいんじゃないかということもあります。それからサッカーなどもそうですが、学校運動部活動ではなくてマリノスのアンダーに入ったりといろいろなので、結局登録制度の話になって、どこから金を取るか、というのが中体連とかスポーツ団体の話になるのですよね。実は30年くらい前から、複雑なのをもっと単純化しよう、という動きがあって、1994年く

らいから、学校運動部活動が全部もう出しちゃおうかという話があったのです。スポーツ振興計画を作る時に、思い切っていこうかと言ったのですけれども、なかなかそれができなくて、今度は振り子が急激に戻りますから、これが今後どういうふうに行くか、3年間でどうなるか、というところです。

ただ、学校の働き方改革というところで、教員は土日は必ず校長のOKが出ないとできないという形にはなっているんですね。あとは一週間の練習時間がちゃんと守られているのか。それをチェックするような組織がないのにやっているから大変なのです。それで公立学校はすごく縛られるのですが、私立は「学校の都合により……」となっているんですね。

○工藤委員 そうすると強い、弱い差が出てくるということですね。

○副議長 ですから、「生涯スポーツ」という範疇じゃないですね。あれは「競技スポーツ」です。「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」をごちゃ混ぜにしておいて、同じラインで一緒にやろう、というのはなかなか難しいですね。

○大畑委員 どう考えてもレベルが合わないですね。

○副議長 中学校や高校で体育館2つとかグラウンド3つ持っているという学校はないじゃないですか。それなのに、野球とサッカーとラグビーとそれ以外の種目を一緒に週5日やると言ったら、場所はどうするんだよ、となりますよね。それから少子化でラグビーなどは15人集まらないよと言ったら、セブン（7人制）をやることになりますが、セブンは、国体でありますか？

○生涯スポーツ課長 ないです。

○副議長 というようなことで、たぶんどんどんスポーツ種目がフットサルになっていたり、バスケットボールが「3×3」になったり、子どもが少なくなって少子化になっていて、どんどんストリート化が進みます。どこでもできるように。どこでもできるようにするということは、それだけ場所がないということの裏返しなんですね。場所の取り合いをさせないためには、シーズンスポーツで春夏秋冬で種目はその時々でできるようにしないと、今のシステムでは無理だとわかっているのですが、話がなかなか進まないのです。

○議長 今のお話を聞いていると「フルサービス」という言い方ですね。1個のことを決めて形ができたらずっと、ということは持続可能ではない、というご指摘だと思います。そもそも近代の学校そのものが、体力がない自治体が学校組合でやってきた。埼玉でも最近まで小さい自治体に学校組合立中学校があった、という話からすれば、部活も当然そうなるかもしれないし、本当にできる範囲というのを見定めていかないといけないというご指摘なのかなと思いました。とてもここだけで解決できるようなことで

はないですけれども。

○副議長 あとは、概算要求で、総合型に 100 億円つく、という案が急に出たんですよ。しかしその予算は、どういうふうに市区町村に下りてくるのか。行政のところではどういうふうに対応できるのか。苦し紛れの話が、これからまだ出てくると思うのです。

○議長 ここは直で生涯学習課と生涯スポーツ課のところの部分に取り分けて、今できるところだと思うので、またブラッシュアップしていただければと思います。

では残すところあと一つですね。図書館です。竹高委員に評価と課題を書いていただいていますので、同じようにカレンダーと経過について事務局の方からご説明をお願いします。

○事務局 中央図書館については、カレンダーの方の書き方がわかりづらい部分が多かったということで、いろいろとお話しさせてもらって、ある程度スッキリさせることができたかと思います。「電子図書サービス」についても上の方に入りました。文章の方は大きくは変えていませんが、わかりづらいところを改善しております。

○議長 ありがとうございます。カレンダーのところで「電子図書サービス」が入ったのは、新しさがよくわかっていいんじゃないでしょうか。

○事務局 開館のところに一緒にしたほうがよいでしょうか。

○議長 いや、これでいいんじゃないでしょうか。

続けて竹高委員の文章をまた事務局で読んでいただけますでしょうか。

○事務局 はい。では代読いたします。

「中央図書館 竹高 京子

評価

コロナウイルスが流行り始めて、住民の生活に直結して変化が現れたのはこの施設かもしれない。縮小開館を実施しサービス内容は、予約した資料の受け取り、資料の返却のみ可能になり、館内にも入れなくなり、イベントも全て中止になった。未知のウイルスにどう対応するべきか何が良くて何がいけないのか、接触感染なのか、本等の紙類からもウイルスは感染するのか、ほとんどの事がわからないまま緊急事態宣言だった。そして葛飾区立図書館全館は休館となった。

いつも当たり前のように目の前にあったサービスやイベント、行けば当たり前になっていた場所が閉まっているのを見て、本当に必要なのだということを再確認したのではないだろうか。本好きの人間にとって、図書館に行くことを喜びとしている人にとって非常に悲しかったと思う。

その中で図書館は来られない人へのサービスとして、インターネット上で本に触れることができるサイトのリンクをホームページで公開し、職員の読み聞かせを YouTube で

配信する・電子書籍を増刷する等、配慮が嬉しい。のちに中央図書館において、図書の郵送サービス（有料）が開始されて、喜んだ人は少なくはないと思う。

コロナウイルスの感染再拡大に伴って政府は何度も緊急事態宣言を発令していたが、開館時間の短縮や席の間引きをして図書館職員の方々には努力をしていただいた。区民が不安な生活をしている中で、対応して下さった図書館に関わる全ての方々に感謝申し上げたい。

図書館業務において普段から会話のある場所ではないが、図書館協会からのガイドラインを踏まえた上で、消毒の徹底・マスクの着用・短時間での利用の周知など、感染拡大の防止に努めていただいたといえる。

課題

コロナ前にはもう戻ることは出来ない。でも、それを踏まえた上で前に進むことは出来る。東京都のガイドライン・図書館協会のガイドライン様々なものが混在していると思うが、葛飾区の図書館はどうあるべきかどう進むのかいつも考えていていただきたい。未知のウィルスが流行ってしまうのはこれが最初でも最後でもない。何が正しくて何が間違っているのかわからなくなる。だからこそ、区民の大切な場所である図書館は、いつでもだれでも安心して来館出来る図書館サービスを目指してこれからも頑張っていたきたい。」

○議長 ありがとうございます。図書館大好きな竹高委員の想いが伝わってきますね。

いかがでしょうか。こうして記録と皆さんの評価そして提案というのを対に読んでいくと、すごく対応関係というのが感じられていいなというふうに思うのですが、初めに申したように、ある程度の統一的なスタイルというのが整えば、抱えていることとそれに対するコメントというのがしっかり伝わるかなと思います。

○副議長 図書の郵送サービスが開始されたのはいつ頃からですか？

○事務局 文章のところに、「令和2年6月に図書の郵送サービスが開始」とあります。

○副議長 カレンダーに入れるとすると2020年のところかな。

○事務局 電子図書館の欄に「開始」みたいに矢印を入れた方がいいでしょうか。

○生涯学習課学び支援係長 2020年6月の電子図書館に入れては？

○議長 その郵送サービスって注文すると送ってもらえるのですか？ 返すのは図書館？ ブックポスト？

○生涯学習課学び支援係長 たぶんブックポストです。

○事務局 ブックポストの数は増やしています。駅ですとかに。

○議長 受け取る時も便利に受け取れたらよいですね。郵送か……。

○副議長 品川区は目黒駅に同じようなサービスセンターがあって、予約すると受け取

れます。それから返却できるのですけれども、ブックポストでどこかに入れて返すというのではないですね。そういうサービスは。あちこちにあつたら本当は楽ですね。普通は、わざわざ図書館まで返却しに行かなくちゃいけない。ただし、そういうサービスをやる時に人間を置いてやるといっても一日何冊借りに来るかというコストパフォーマンスの話になってしまいますね。

○議長 ちょっと話がずれますが、この夏休み中にちょうど社会教育実習で図書館にお世話になった学生もいたんです。いわゆるカウンターのところだけでなく、裏の方に入れてもらって。流山市の中央館に行ったのですが、図書館同士の相互貸借の、こっちからこっちへというカートの行き来が忙しかったりとか、他の館は移動図書館もやっていたりとか、だいぶ物流の仕事のようなところがあって、おっしゃるとおりマンパワーが大変だなと思います。

○副議長 そうすると空港みたいに全部の本にICチップ入れておいて、サササッとできたらラクでしょうが作るのが大変ですね。

○議長 本はそれにプラスして検品がいるのです。相互貸借の本が来たら確認してそれから回すという作業をやっていたのを見ました。いろいろと新しいことを始められるときの大変さを感じるころです。

一通り、記録と経過、委員の皆さんの評価と提言を一緒に共有いただきましたけれども、委員の皆さんの表現の形として、このカレンダーと文章に言及された事業について評価をしていただいて、それから提案・提言という形での構成にしていく。それを共通のスタイルにさせていただけたらと思います。

○事務局 構成がまだはつきりしないのですが、それは課ごとでしょうか。それとも提言は別でしょうか。

○議長 いや課ごとで、今日セットしていただいた形がいいのではないですか。

○事務局 実際に冊子としてまとめる時に記録があつて、委員の皆さんの提言が続くということですか。それとも別にするということですか。

○議長 「各課の取り組み」の章、「委員からの提言案」の章、というふうにした方がすっきりする。

せっかく原稿をお出しいただいた委員の皆様には、また依頼することとなり恐縮ですが、今日欠席の皆様方にも同じ形でお願いしたいと思います。

野川先生と僕の部分も11月には出せると思います。そうすると頭とお尻と全体が見えるかなと思います。

○事務局 先ほど工藤委員から、参加者の人数のコロナ前とコロナ後の違いだとかがわかるようなものが欲しいというご意見がありました。

○**工藤委員** わかれれば見やすいかな、わかりやすいかな、という。

○**事務局** 生涯スポーツ課の方では、文章のところで「コロナ禍による影響」という小見出しをつけて、どんなふうに変ったかが書いてありますが、他の課にはない。例えば他の課でも、こういうものを書き加えてもらうようにするという方法も一つあるかと思うのですけれども。コロナ禍でどういうふうになっただかというのがないので、そこはもしかしたらこの記録では必要なのかな、ということで、工藤委員からも変化がわかるものが欲しい、という声もあったのかなと思います。何らかの形でそういうものがわかるものが必要なのかなと、工藤委員のご意見から思いました。どうでしょう。

○**生涯学習課学び支援係長** 「コロナ禍による影響」ということで、そこには数値の減少の傾向があったりとか、それによって事業がこういうふうに変化したとか、影響によって数字が変わったり事業の形態が変わったり、工夫の部分と被る部分は、もしかしたらあるのかもしれないけれど。

○**事務局** 会員数の減少とか、そういうのはみんなあると思うのですけれども。具体的に例えば何人から何人とかというのも入るとわかりやすいかもしれません。

○**生涯学習課学び支援係長** 具体的に書いてもらえると見やすいかもしれないですよ。

○**事務局** 他の課にも、生涯スポーツ課に倣って加えてもらいましょうか。

○**議長** まんべんなくということではなくても、象徴的なものでもよいです。

○**生涯学習課学び支援係長** 象徴的というか特徴的なところで、ピックアップを2、3個してもらおうとか、その方がいいんじゃないでしょうか。数字だけを出してもわからないものは、逆に文章で書いてもらった方がわかりやすいので、その方がいいのではないのでしょうか。

○**事務局** 全区的な調査で、習い事や生涯学習をしている人の割合、という数字もあります。

○**生涯学習課学び支援係長** そういう比較もできるし、他の課との連動ももしかしたら見えるかもしれないし、それはそこに加えた方がいいのではないのでしょうか。

○**議長** ぜひ各課への依頼には「生涯スポーツ課のこんなスタイルで」とお手本にみていただければいいんじゃないでしょうか。

工藤委員、ご提案ありがとうございました。

そうしたら、全体としてこんな形でよろしいでしょうか。11月にはそういう意味ではだいぶ全体像が見えるかと思えます。

○**事務局** 11月に机上には冊子の元となるようなものがあって、もう一度ご検討いただくのですけれども、この元の中にもう一回書き直したものを一週間前に提出していただくということでよろしいでしょうか。

○**議長** それは事務局のスケジュールを逆算していただいて、いつまでにという指示をしていただければと思います。僕らはそれに向けて頑張ります。よろしくお願いいたします。

では、この議事1「(1)記録と提言の検討」については以上としたいと思います。

(2) 教育委員との懇談について

○議長 では、2番目の「教育委員との懇談について」ということで、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 資料2をご覧ください。12月9日に教育委員会が午前中にございます関係で、教育委員がお昼を食べてからあまり時間が空いてしまうとよろしくないので、1時半から、いつもより社会教育委員の会議としては30分早く懇談会をしたいと思っております。内容は、出来つつある「記録と提言」を事前に教育委員にも案の段階で配付しまして、それについて深めていければなと思っております。教育委員からも質問や意見が出されるかもしれませんので、皆さんからも、この辺に思いを込めているとか、こういうことがわかったということを一言ずつコメントしていただければと思っております。もちろん、その前に全体のご説明を議長からお願いしたいと思っております。「その他」というところでは、自由に葛飾区の社会教育全般について、ご意見がありましたら話していただいてもかまいませんし、教育委員からもあるかなと思います。もしかしたら、ここは時間切れということできないということもあるかもしれませんが、よろしいでしょうか。

○議長 皆さん、よろしいでしょうか。では11月の会議は25日ということで、そこからあまり間をおかず12月ということですね。

(3) 今後の会議の進行について

○議長 では続けて(3)「今後の会議の進行について」というところをお願いします。

○事務局 資料3のスケジュール案ですが、赤い文字が今日の日付になっているだけで、前と変わっておりません。変わっておりません。ちょっと心配なのが、12月9日の後について、報告書の中味についての確認が1月20日で完成するのか、2月17日まで延びるのが見えていないところがあります。正副議長と相談しながら進めたいと思っております。

○議長 まずは、この報告書の完成を目指していくということでしょうかね。ありがとうございました。

(4) その他

○議長 では、最後の4番目「その他」ですが、どなたか何かございますでしょうか。

委員の皆さんから報告や協議事項などありませんか？ よろしいですか。

事務局からはありますか？

○生涯学習課学び支援係長 はい。今日配付させていただいたこの封筒、冒頭に少し触れましたが、これについてご説明をさせていただきます。議長・副議長にもご協力いただいている「教育振興基本計画」の策定検討が今進められていて、その前資料と言いますか、それぞれ関係する団体にもアンケート調査が実施されているところです。生涯学習に関する部分は社会教育関係団体ということで、区内の各種団体、サークルですとか関係団体・機関ですとか、そういったところにアンケートの協力依頼をしているところです。社会教育委員の皆様にもぜひご協力いただきたいということで、今回お配りをさせていただきました。委員の中には「何部ももらっているよ」という方もいらっしゃるかもしれませんが、重複してお出しいただく必要はないので、もうすでにお答えいただいている方は、ご返却いただくなり処分していただくなりお願いしたいと思います。

内容としては、区の教育振興にかかわるアンケートということで、アンケート用紙と返信用封筒が入っております。11月7日までにご返却ください。併せてオンラインでの回答もできます。QRコードも入っておりますので、ご選択いただいてご協力いただければと思っています。よろしくお願いいたします。

○議長 よろしく申し上げます。これ、僕らのところにも封筒をいただいているんですけども。

○事務局 社会教育委員として、ぜひご回答をお願いします。

○生涯学習課学び支援係長 特に区内限定ではございませんので、ぜひご回答いただければと思います。

○副議長 これは記名式ですか？

○生涯学習課学び支援係長 無記名でお願いします。

○議長 わかりました。ありがとうございます。では他はいかがでしょうか。

それでは以上ですべての議題は終了しましたので、本日の会議は以上としたいと思います。今日はありがとうございました。